

2) 冬の北西季節風（鈴鹿おろし）

ア 採録した呼び方

- a 季節風一般 カラカゼ（：空風）カラッカゼ（：空風）ヤマオロシ（：山おろし）
- b 特に（寒気が）強い季節風 カラカラカンジ、カラカンジ、カラッカンジ
- c 雪を伴う季節風 ユキオコシ（：雪起こし）ユキオコシノカゼ（：雪起こしの風）
- d その他の季節風
 - ・ 地域の山の名等に由来する風 カプトオロシ（：加太おろし）シャクトオロシ（：錫とおろし）スズカオロシ（：鈴鹿おろし）セキオロシ（：関おろし）ニュウドウオロシ（：入道おろし）ノノボリオロシ（：野登おろし）ハグロオロシ（：羽黒おろし）フジオロシ（：富士おろし）ミョウジョウオロシ（：明星おろし）
 - ・ 滋賀県（江州）からの風 ゴウシュウオロシ（：江州おろし）ゴウシュウカゼ（：江州風）
 - ・ 真北方向からの風 キタオロシ（：北おろし）
 - ・ 田村神社の厄除大祭時（2月17日～19日）頃に吹く寒冷な風 タムラカゼ（：田村風）

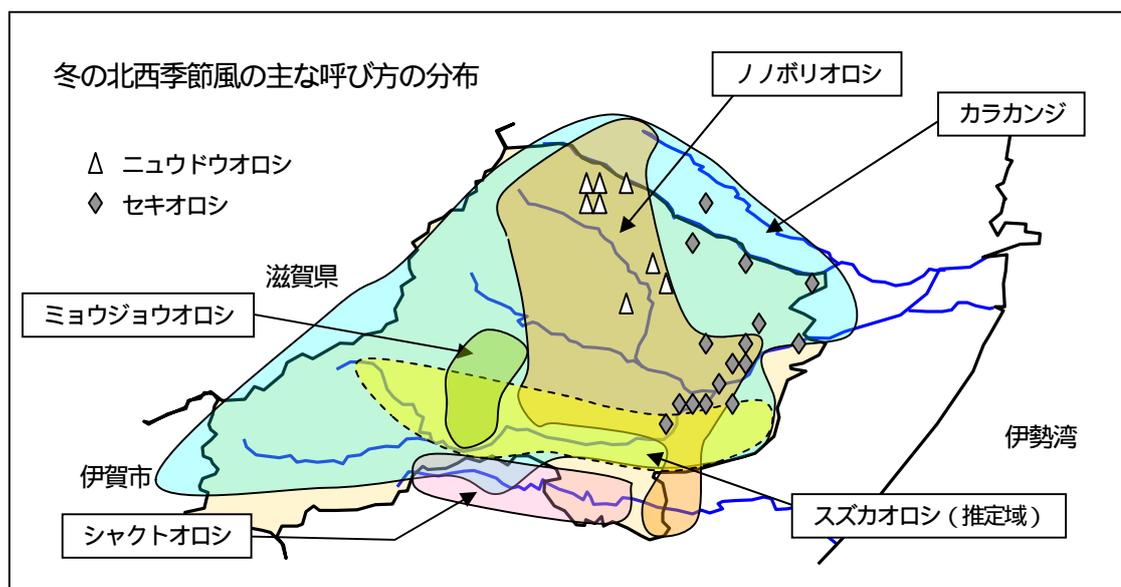
イ 呼び方とその状況

冬の北西季節風の呼び方としては、「カラカゼ」や「カラカンジ」をはじめ計21種を採録した。

現在、三重県北勢地域において広く「鈴鹿おろし」と呼ばれる寒冷な北西季節風は、郡内全域で「カラ（ッ）カゼ」や「ヤマオロシ」と呼ばれたほか、雪が伴う場合には「ユキオコシノカゼ」、また、中でもとりわけ強風となる寒冷な季節風は昼生地区等一部を除き、広域で「カラカンジ」と呼ばれた。

一方、風上となった山並みから吹き下ろす風として、地域や集落によって「ノノボリオロシ」、「ミョウジョウオロシ」、「シャクトオロシ」等山の名に「オロシ」をつけて呼ばれたほか、風上の地域名から「セキオロシ」、「カプトオロシ」、近江地域から吹いてくる風として「ゴウシュウカゼ」、また、田村神社（甲賀市土山町）の祭りの時期に吹く寒冷な風として「タムラカゼ」が見られた。

なお、「鈴鹿おろし」については、明治時代から大正時代にかけて、滋賀県との県境となった山並の名称が「鈴鹿山脈」と定められて以降に北勢全域に広まったようで、「鈴鹿山（スズカヤマ等）」と呼ばれた山並みの位置や郡内における他のオロシの呼び方の分布等の聴き取り結果からも、かつては鈴鹿峠付近の山々からその谷沿いに吹き下ろす風を指す言葉として、坂下地区から東側に連なる限定的な地域でのみ使われた呼び方であったものとみられる。



「鈴鹿山脈」という名称が印刷物に登場するのは、地図では昭和5年発行の「新選詳図（帝國書院）」であり、「三重県統計書」では昭和24年版以降である。